

松江城景観形成基準 見直し案

3-3 主要な展望地

(1) 松江城

全国に現存する12天守の一つ。山陰では唯一の天守で、松江のシンボルとなっている。天守からは松江の市街地を一望することができ、特に南の方向の宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島は絶景である。

(追加) ◆松江城景観形成の基本方針

- ・ 建物の高さ規制による東西南北に連続する山の稜線景観、および宍道湖に浮かぶ嫁ヶ島の眺望を保全する。



松江城天守



天守より南方向(宍道湖・嫁ヶ島・松江の市街地)を望む

変更前

【松江城景観形成基準】

- ・ 天守から見える東西南北の山の稜線の眺望を妨げない
- ・ 天守から宍道湖の湖面が見える範囲で、嫁ヶ島の水際線を延長した線を侵さない

変更後

【松江城景観形成基準】

- ・ 天守から見える東西南北の基準線(山の標高:図1~4参照)に接しない高さとする。ただし、松江市景観審議会の審議により、次のいずれかに該当する施設においては、規制の緩和を認めることができる。
 - ①公益性が高いと認められる施設※1
 - ②松江駅周辺地域※2の施設
- ・ 天守から宍道湖の湖面が見える範囲で、嫁ヶ島の水際線を延長した線に接しない高さとすること。

※1 公益性が高いと認められる施設とは、学校、病院等とする。

※2 松江駅周辺地域は、中心市街地エリアビジョン松江駅周辺ゾーンとする。

基準線

(図1)東



(図2)西



(図3)南



(図4)北



【松江駅周辺地域】

中心市街地エリアビジョン(市民と共有する「L字ライン」の未来地図)から抜粋

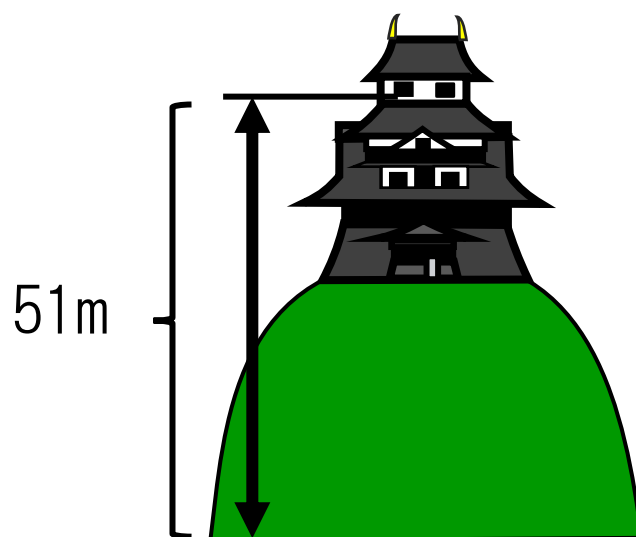


【松江城天守最上階の視点高について】

①日本人の目線の高さ
約 150cm
(平均身長一頭頂部から目までの高さ)

②松江城最上階床高
約 49.5m (標高)

松江城天守最上階の視点高
床高 49.5m + 目線の高さ 1.5m = 51m



新しい眺望基準施行までのスケジュール（11月19日時点）

11月19日（火）	第53回松江市景観審議会
12月上旬～1月上旬（30日間）	パブリックコメント
1月中旬（2週間）	縦覧
2月中旬	公聴会
2月中旬	都市計画審議会
2月下旬	第54回松江市景観審議会（答申）
3月下旬	【告示】景観計画の変更